

江戸川大学国立公園研究所から

執筆担当・伊藤太一

序論

オルムステッドと聞くとヴォークスと共同でニューヨークのセントラルパークをデザインしたオルムステッド (Frederic Law Olmsted、一八二二—一九〇三) を思い浮かべる方が多いかもしれないが、ここではジョン (John Charles Olmsted、一八五二—一九二〇) とオルムステッド二世 (Frederic Law Olmsted, Jr.、一八七〇—一九五七) も含める。特に二世は後述する国立公園局設置法案作成時から引退するまで国立公園システムの多くのプロジェクトに関わっている。ここでは二世が関わった公園局設置法案とオルムステッドという名称が残っている三カ所についてその経緯を記す。

I. 国立公園局設置法 (Organic Act)

一八七二年のイエローストン公園設置以来、個別立法で国立公園は増加し、一九〇六年の古物保存法制定後、大統領によって指定される国家記念物 (国立公園と訳している文献もあるが国立公園に準じるものではない) も増加していたが、これらの管理組織がない状態が続いていた。二世は一九二一年から管理組織の必要性を訴え、一九一六年に成立する国立公園局設置法の目的に関する文言 (注) を策定した。この中で「歴史的対象」が含まれている点がまず注目される。すなわち、米国の国立公園は決して「自然公園」でも「自然保護地域」でもない。また、「保護 (protection)」ではなく「保全 (conservation)」という管理手法が示され、具体的に将来の世代ま

で「無傷の状態のままで残せる方法や手段」と述べている点も重要だ。さらに、人々がずっと「享受 (enjoyment)」できるようにする」という目的が明示されている。「保護と利用」という二つ目的が並立していると誤解される場合もあるが、「保全」という管理によって人々が持続的に「享受できるようにする」ということであり、決して並立ではない。なお、国立公園局設置時点で国立公園一四カ所に加えて、国家記念物二一カ所、リザーブ二カ所、計三七カ所を管理することになり、それまでイエローストンやヨセミテに駐屯していた騎兵隊は撤収していった。

II. ヨセミテ国立公園 (Yosemite National Park)

ヨセミテ渓谷とマリボサ樹林からなる州立公園を取り巻く広大な地域が一八九〇年に国立公園になる。これによってヨセミテ渓谷を流れるマーセド川やヘッチヘッチにダムが建設されるトゥオルミ川の源流部に位置するシエラネバダ山脈が公園に含まれた。

このシエラネバダ山脈西麓を一八六四年八月末に探索した人がい

る。家族でヨセミテ渓谷に滞在していたオルムステッドは一二歳のジョンとカリフォルニア州地質調査所のブルーアールとラバでモノ・トレイルを辿りテナヤ湖やトゥオルミ草原の炭酸泉を抜けモノ峠まで進み、ギブズ山 (Mount Gibbs、三、八九〇m、オルムステッドが命名) に登っている。帰途は今日のミア・トレイルあたりを辿りヨセミテ渓谷に戻っている。

今日公園を東西に横断するタイオガ道路は、オルムステッドたちが使ったモノ・トレイルと並行している。二世は一九二八年から一九五三年までヨセミテ国立公園専門委員会の委員を務め、このタイオガ道路の改良についても多くの意見を述べてきた。その功績を称え、ハーブドームやテナヤ湖が眺望される地点がオルムステッド・ポイント (写真1) と名付けられた。オルムステッドとジョンもこのあたりを通ったからオルムステッド・ポイントとは三名を記念していると言えよう。



写真1 オルムステッド・ポイントからのハーブドーム (1984.6.21撮影)

三. レッドウッド国立州立公園 (Redwood National and State Parks)

ジャイアント・セコイアに比較して、海沿いに自生し材質の優れたレッドウッド樹林は一九世紀後半から私有化され伐採が進んでいた。一九〇二年にビッグ・ベイソン・レッドウッズ州立公園 (Big Basin Redwoods State Park)、一九〇七年にはミユア・ウッズ国家記念物 (Muir Woods National Monument) が設立されたが、私有地の買収は困難であった。そこで一九一七年に現地を視察した初代国立公園局長マザーは、翌一九一八年に「レッドウッズ救済連盟 (Save-the-Redwoods League)」を結成し、

募金を募り土地を買い上げて州立公園としていった。さらに彼は二世と共に、州立公園のシステム化と管理組織づくりを支援し、一九二七年に州立公園委員会が設置された。公園候補地調査を請け負ったオルムステッド事務所は住民参加を導入して候補地を絞り、一九二八年末日に報告することができた。このようにレッドウッド樹林の買い上げと州立公園化は進んだが、国立公園が設置されたのは一九六八年であった。

そのころまでにはレッドウッド生育地の九六%が伐採されていた。一九四四年には国立公園 (二万九、〇二二ha) と三つの州立公園 (Jedediah Smith Redwoods, Del Norte Coast Redwoods and Prairie Creek Redwoods、一三万四、三九〇ha) を一体として管理することになり、その後国立州立公園 (五万三、四二二ha) という名称が導入された。

一九二六年にレッドウッズ救済連盟に加わり、一九二八年に公園候補調査を実施し、引退するまでレッドウッズの保全に邁進した二世を称えて、一九五三年にブレリー・クリーク・レッドウッズ州立公園のブラウンス・クリーク・トレイルに「オルムステッド樹林 (The Frederic Law Olmsted Grove)」が設定された。その二年前に同じトレイルに「シエンク樹林 (The Carl Alwin Schenk Grove)」も設定されている。シエンクとはノースカロライナ州のビルトモアで北米で最初の林業学校を設立した人物である。この樹林を巡るルーフトレイルにはシエンクが選んだ米国林業の功労者一五名の氏名を記した標識があり、その筆頭にはオルムステッドが挙げられているという。偶然

ながら、親子の標識が一つのトレイルに存在することになった。

四. オルムステッド国立史跡 (Frederic Law Olmsted National Historic Site)

一八八三年にオルムステッドはニューヨークからマサチューセッツ州ブルックラインに転居し、翌年からフェアステッド (写真2) という自宅兼事務所を構えた。一八九五年のオルムステッド引退後はジョンと二世が共同経営者となり多くのプロジェクトが進められた。オルムステッドは一一年、ジョンは三六年、二世は七〇年近くここで仕事をしたことになる。

一九七九年に国立公園局が二・九haの敷地を買い上げ、国立史跡として管理し、一八六五年のヨセミテ報告を含む五、〇〇〇以上のプロジェクトの資料が保管されている。このフェアステッドの東二kmほどのところにエメラルドネックレスがあるが、その中にもオルムステッド・パークがある。



写真2 フェアステッド入り口 (1988.7.19撮影)

おわりに

田村剛はランドスケープ・アーキテクチャ紙に掲載された二世による国立公園の記事に注目し、一九二二年に渡米して国立公園や国有林を調査した。人々の利用を重視する二世の考え方を引き継いでいる。

注：“to conserve the scenery and the natural and historic objects and the wild life therein and to provide for the enjoyment of the same in such manner and by such means as will leave them unimpaired for the enjoyment of future generations.”

参考文献

Dewitt, J.B. (1985). California redwood parks and preserves. Save-the-Redwoods League. Diamond, R. and Carr, E. (2022). Olmsted and Yosemite. Library of American Landscape History.
Engbeck, Jr., J.H. (1980). State parks of California from 1864 to the present. Graphic Arts Center Publishing.
Ranney, V.C. Raulik, G.J. and Hoffman, C.H. eds. (1977). The California Frontier. 1863-1865. The Johns Hopkins University Press.

伊藤 太一 ● いろいろ たいいち

富士山の入山料徴収が話題になっているが、レッドウッド国立州立公園では入園料を徴収しない。南北に縦断する国道二〇二号線に沿って私有地が散在している上、公園地の多くは寄付金で買収した結果であるためだ。グレイト・スモーク・マウンテンズ国立公園も世界遺産だが、同様な経緯によって入園料も徴収である。なお、国立公園システムを構成する四二七カ所のうち入園料を徴収するのは一〇九カ所である。